

## 招請講演1 人をつくる

並木昭義

小樽市病院事業管理者・札幌医科大学名誉教授

「人をつくる」は人を育成するという意味である。この人には自分、他人そして人の集まりの組織、社会がある。人は出会った環境、立場、人達、出来事などを自分で選択、活用し、価値ある有意義な成果、思い出をつくる。

私の幼少時、学生時代に学んだ体験が医師、麻酔科医として活動する基本となった。麻酔科医として40年間の前半は一人前になるために自ら学び、また育成された。後半は大学人として教授、病院長、学生部長、運動部部長、また学会人として日本麻酔科学会の理事、会長、理事長として「人をつくる」ことに力を注いだ。その時心掛けたのは人と組織の実力、実績を上げ国内外から高く評価されることであった。この方針は現在も病院事業管理者として実行している。哲学と志なき組織と人は必ず躓くと言う。一般社会においてこの厳しい時代を生き延びる組織の共通点は、組織に思いやりがある、コミュニケーションがよくとれている、そして前向きな姿勢で実行している。そこで働く個人は、相手への思いやりで自分の求められているもの、よく対話することで自分の果たすべき目標、そして前例や経験に囚われずに実行することで自分の成長がわかる。組織は人なりである。組織の発展には個人の成長が必須である。このことは医学・医療界の関係においても同様である。組織には優れたリーダーと人材が必要である。私はリーダーとして心掛けてきたことは、1) トップが一番よく働く、2)「オイアクマない精神」で部下に対応、指導する。すなわち怒らない、威張らない、焦らない、腐らない、負けない姿勢で臨む。3)「人間万事塞翁が馬」である。人事、仕事上のことで何が幸いするかしないかわからないので1つ1つのことにあまりくよくよしない。4)「人事を尽して天命を待つ」である。自分の実力と置かれている立場、役割を果たすための能力との差の大きさに悩んだ。その差を埋めるために悪戦苦闘してきたが、それは無理であることがわかった。それで「明るく、ま

じめに、前向きに」というポジティブな態度で一生懸命に仕事をする。そしてその結果と評価を素直に受け入れることである。5) 多くの歴史的な人物から人をつくることを学んだ。私の座右の銘である徳川家康の「大将の戒め」には大将は家来に惚れさせなければならぬものだと人間関係に心情の大切さを示してある。

人材をつくるには教育が必要であり、教育には信頼、尊敬し合える人間関係が大切である。私は臨床研修医、若手医師に贈る5箇条を作っている。1.自分が医師として世の中から何を求められているか知る(時流を読まなければ渦に巻き込まれるか流される)。2.若い時期の研修、修練を楽に安易に行うと必ず後で後悔する(知識、技術が我流になり、医療人として信頼されなくなる)。3.知識、技術は正しく、繰り返し学習し体で覚え込む(そうすることで知識、技術が知恵になり、応用されていく)。4.人から教を請うにはまず先に自分にできることを提供する(give, give and take)。5.自分の目標の達成にはPAN(P = priority, A = action, N = never give up)が必要である。「人をつくる」ことは自分を含め人間、所属している組織、そして生きている社会を知るうえに貴重な体験になる。

私の高校の先輩のノーベル化学賞鈴木章先生は「希望や理想は、決して人から与えられるものでなく、自分で考えて見つけ出していくもの。希望がないのは、自分で考えていないこと。たとえ小さな夢でも、それに向って突き進めば、いつか成果が出る。そうすればますます興味がわき、大きな希望が見えてくる。」と含蓄のある話をされた。

人は個人のためより、自分を必要とする組織、社会に尽力、貢献することで評価され、満足する。学会は会員、さらに社会の人達にどれだけ必要とされ、どのように貢献していくかによって評価される。日本高気圧環境・潜水医学会の充実と発展を祈っている。